

## 遊べる浮世絵展 くもんの子ども浮世絵コレクション

東京都練馬区立美術館 (中村橋) 2019.04.28～06.09



「江戸の子ども絵・おもちゃ絵大集合!!」とされる本展覧会は、公文式学習法で知られる「公文教育研究会」が長年にわたり子ども文化に関する研究のために、「浮世絵」を中心に、およそ「3,200点」におよぶ歴史資料の収集と研究を行ってきた中から、今回、選りすぐりの「浮世絵・絵巻・屏風・絵本・玩具など約170点」が展示されている。

左：歌川芳藤 《新工風うつしゑ》（部分） 1854～60年頃

江戸の庶民生活を描いた「浮世絵」には、歴史的な一面だけではなく、子供たちの日常や自然の中で無邪気に遊ぶ姿、母親の情愛を受けて健やかに成長する姿などが数多く描かれて、現世代と全く変わらない子どもの愛おしい自然なしぐさが見て取れる。また、「浮世絵」は江戸時代の代表的な印刷物であったことから、子供たちの絵本、教具、双六や凧などのおもちゃなどにも用いられて、広く庶民に楽しまれていたものである。

本展では、こうした江戸時代の子どもたちの生活の様子や、当時の遊びを題材にし、大人も子供も楽しめる当時の「浮世絵の世界」を非常に興味深く紹介している。



左：菊川英山 《子供遊七福神 大黒》 1811年頃

中：歌川国芳 《坂田怪童丸》 1845～46年頃

右：歌川国芳 《押絵羽子板 牛若丸》 1843～46年頃